
石っころ

にむろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

石ころ

【Nコード】

N1622B

【作者名】

にむろ

【あらすじ】

散歩中の青年に起きた、ちょっぴりサプライズな出来事。

休日の朝。青年は近所のそこそこ広い公園に散歩しに来ていた。今他にここにいるのはキャッチボールに興じる少年2人だけだ。青年は最近溜まっていたストレスを少しでも解消できたらいいなあと思いつつ、自然に触れつつのんびりと歩いていた。

その時。

「いてえっ！」

近くから場違いな声が聞こえてきた。キョロキョロと辺りを見回してみたが、少年達以外は誰もいない。

「てめえ！どこ見て歩いてんだこらあ！」

声のした方を見てみるものの、やはり何もない。

「おい！ここだよここ！いい加減気づいてくれよ！」

半ば上擦った声がした方をよく見てみると、何やら漫画チックな濃い顔をした石ころがあった。そしてそれは口を開いてしゃべりだした。

「てめえっ！石を蹴^{ひと}っ飛ばしておいて素通りって、酷すぎるだろ！ひき逃げならぬ蹴り逃げかよ！？こっちからしたらマジ洒落にならないから！」

「げっ。石がしゃべった」

青年は割と冷静だ。

「おい！せめて蹴ったことを謝るぐらいしたらどうだ！こらあ！」
「どうやらさっき、知らぬ間にこの石ころを蹴ってしまったらしい。」
「うるさい。石のクセに」

青年は溜まっていたイライラを石ころにぶつけた。

「てめえ！石を馬鹿にするんじゃないやねえ！全国の石田さんに謝れ！」

「いや、石田さんは人間だし」

「石を馬鹿にする、イコール『石』がつくものを馬鹿にする、なんだよ！」

むちゃくちゃな主張である。

「それに、てめえらが使っているパソコンやらなんやらに使われている集積回路やらなんやらに用いられているケイ素は俺達石とか岩の主要な構成元素であって人間は俺達からケイ素をよく採取しててつまり俺が言いたいことはてめえら人間が便利な暮らしができるのは俺達石様のおかげなんだってことなんだよ!!! はあはあ」

「…へえ」

「1へえかよ! ちょっとはひとの頑張りをくみ取ってくれよ!!! 今俺、久々の努力を報われたかったんだけど! ももも、モー!」

「牛かよ」

怒りなのかやりきれなさなのか、石ころは顔(?)が赤くなってきた。

「あ、焼け石」

焼け石とくれば水である。小学生の頃よくやんちゃ坊主と言われていた青年は、忘れかけていたイタズラ心を目覚めさせた。

「おい! 何しやがる!」

青年は石ころを水道の蛇口の真下まで持っていき、まだ喚いている石ころに水をかけてみた。

「がべべ、ごぼぼ、がべ、ごぼべっ!」

苦しそうだったので水を止めた。

「…っばあ! つはあはあ。おい! 何しやがる! めっちゃめっちゃ苦し冷たかったし!」

「何でだよ。『焼け石に水』ってあんまり効果がないってことじゃないのかよ。頼むよ」

「そんなむちゃくちゃな! っていうか別に俺焼けてなかったし! どれだけ理不尽なんだよ! こらあ! こあらあ!!!」

「コアラのマーチかよ」

マーチは言っていないとか突っ込まれながらも、青年が仕方なく石ころを地面に戻してあげようとしたその時、目の前を2羽の雀が横切って行った。元やんちゃ坊主でイタズラ好きの青年が目を光らせ

たことはいうまでもない。

「おい待て！今こそ一石二鳥を実践する時とかいい年こいてそんな
思い付き必要ないからっていうか落ちる衝撃で割れちまあああああ
ああああ！！」

雀達に向かって放たれた石ころは、華麗に避けられ割れることな
く落ちた。

「セ、セーフだぜ…」

しかしホッとしたのもつかの間。直後にキャッチボール少年達の
キャッチし損なわれた硬式豪速球が直撃し、石は粉々になってしま
った。

青年はちよっぴり寂しさを覚えたが、

「てめえ！割れちまったじゃねえか！」

「っていうか硬式はマジで危険だからやめなさい！」

「土下座して謝れやこあらあ！」

分裂した石ころにからまれて動揺する少年達を見て苦笑した後、
石ころの生存に少し安心しながら自宅へと帰っていきましたとき。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1622b/>

石ころ

2010年11月14日03時26分発行